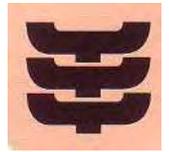


～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

発行

平成 26 年 7 月 12 日

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ



文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

下溝福田家長屋門の歴史

福田家長屋門は近世末期に建てられました。事典には「長屋門は武家屋敷の前面に家臣や下男を住ませる長屋を設け、その一部をあけて門とした。後に農家にも普及するが、門は家格を象徴するもので、領主の許可を必要とされ、名主や組頭などにも許され、他の門より大きく、財力を誇示するのに都合よく、かつ納屋などに使え実用性が高かった」とあります。この長屋門が、出来た理由は分かりません。まず福田家の長屋門に関係がありそうな4つの出来事を述べます。

- (1) 福田家は『新編相模国風土記稿』に、16世紀末に北条氏照娘・貞心尼の家臣として下溝村に来たとあり、「貞心尼」の位牌がある。
- (2) 安政4年(1857)の当主の日記に「酒造業を止めるので、長屋門も閉めた」とある。
- (3) 「名字帯刀」の古文書があったと記憶している。
- (4) 領主は烏山藩(栃木県)で財政は逼迫し、二宮尊徳が改革し、栃木県内に「二宮町」(平成21年真岡市に編入)があった。

70年前の東京空襲で焼け出された一家が、長屋門に住んでおられました。私が子供の頃には農業をしていて、脱穀機など多くの農機具を長屋門に入れていました。

最近文化財として活躍し、5月31日の旧石器ハテナ館事業「貞心さまと出逢う旅」、6月21日の麻溝観光協会・麻溝まちづくりセンターの「川めぐりハイキング“歴史とせせらぎを巡る”」などが実施されました。(南部班 福田)

目次

- ・ 下溝福田家長屋門の歴史
- ・ 群馬の「観音山古墳」と「富岡製糸場」を訪ねて
- ・ 古墳時代からの贈り物に感動
- ・ 淵辺義博伝説と護良親王伝承の地
- ・ 古事記と東南班の神話学習事始め
- ・ 津久井城址城山を歩く



下溝福田家長屋門



貞心さまと出逢う旅での様子
(福田家母屋)

群馬の「観音山古墳」と「富岡製糸場」を訪ねて

観音山古墳は高崎市の東部、烏川の支流井野川の右岸台地上に立地する前方後円墳で墳丘は2段築成で、その規模は全長98m、後円部径61m、高さは9.5m、前方部幅63m、高さ9.1m、で墳丘の周囲には馬蹄形を呈する2重の堀があります。この古墳の特徴として 検出された形象埴輪の配列状況は古墳時代の葬送儀礼の一端を具現するものであるとして歴史博物館で保管されています。玄室の壁面は五面加工した人頭大の角閃石安山岩を互目積みし、随所に切り組みの手法が見られるというものでありますが、古墳時代にこのような切り組みの技術があったのかと驚かされました。また、このことを説明されたボランティアガイドの自慢げな様子が印象的でした。



玄室壁面の
互目積み

富岡製糸場は明治5年(1872)に明治政府が製糸業の近代化を図るために設立した官営模範工場で、木骨煉瓦造りの特色ある建物群が140年以上経った現在もほぼ建築当初のまま保存されています。また当時は日本各地に機械製糸技術を伝えると共に機械製糸場の設立を進め、その生糸はフランスやアメリカに輸出され、明治末期には日本は生糸の生産量、輸出量とも世界一となり世界的な絹の大衆化に貢献しました。本年4月末に世界遺産に登録されることが内定しゴールデンウィークには一日当たりの訪れる人数が以前の5~6倍にもなり盛り上がった様です。それでボランティアガイドもフル回転の忙しさで、今後に備えて現在98名のボランティア希望者を教育中とのことでした。(考古班 光廣)



観音山古墳前で記念撮影

古墳時代からの贈り物に感動

平成26年4月22日から5月18日まで、東京国立博物館で開かれた特別展「キトラ古墳壁画」を西部班で鑑賞してきました。

奈良県明日香村のキトラ古墳(国特別史跡、7世紀~8世紀初め)の壁画は、古代中国の世界観・宇宙観である陰陽五行説をもとに描かれたといわれています。

平成13年3月、この古墳から、日本で初めて朱雀の壁画が見つかったと報道されたときには、大きな話題となり、いつか実物を見たいものだ、と思っていました。



入場券

石室の四方の壁に描かれた中国の神獣・四神(青竜、白虎、玄武、朱雀)は、それぞれ色鮮やかで、いまにも飛び出してきそうな感じで、“古墳時代からの贈り物”のような姿に感動を覚えました。

あらためて、被葬者は誰なのか、壁画を手がけたのはどんな画師だったのか、なぜ明日香村にあるのか、知りたい謎が次から次へと広がり、いつの間にかロマン溢れる世界に引き込まれてしまいました。

明日香村には、キトラ古墳壁画を保存展示する、仮称「体験学習館」が平成28年度に完成する予定とか。また、じっくり観たいな、と思っています。(西部班 永山)

淵辺義博伝説と護良親王伝承の地

淵辺義博は淵野辺村の地頭で、足利尊氏の弟・直義の忠実な家臣だと言われています。『新編相模国風土記稿』には、「淵辺伊賀守義博居住し、……居蹟は村の北にあり、第六天の祠もある」と記されています。

義博がよく知られるのは、『太平記』に伝えられる、後醍醐天皇の皇子護良親王を奉殺した話です。淵野辺の在という確証はありませんが、当地に伝説が伝わっています。境川の川沿いの沼に棲む大蛇を退治した話と、護良親王を龍像寺の洞穴にかくまい、宮城県石巻へ落ち延びさせたという「親王生存伝説」です。

護良親王を祭神に祀る神社は、殺害された地に建つ鎌倉市の「鎌倉宮」が知られていますが、横浜市戸塚区柏尾町にある「王子神社」は、親王の御首を葬った地という伝説の場所に建つ神社です。

そこから南西へ500メートルほどの場所に、「護良親王首洗井戸」があります。同地に、高さ1.5メートルほどの石碑が立っています。碑文には、親王供奉の武将が、当地で御首を清水で浄め、四本の杭を打って祀壇を作り供養したと記しています。下手人は、「足利高（尊）氏の下僕義博」と刻まれているのを発見しました。太平洋戦争中、相模原の人々は、「逆臣の地」の出身だといわれ苦しい思いをしたと聞きます。（東部班 宮下）



四つ杭跡
の石碑

古事記と東南班の神話学習事始め

『古事記』は序文によると天武帝の命で稗田阿礼が暗誦した伝承と天皇系譜を太安万侶が編集し、和銅5年（712）に元明帝に奏上したとされています。上巻は神話、中・下巻は神武帝～推古帝までを扱います。現存する最古の写本は14世紀の真福寺本です。

残念ながら、『古事記』は江戸時代、本居宣長が『古事記伝』を著すまで忘れられた存在でした。正史（『続日本紀』）に記述が無いこと、序と本文の文体が違うこと、阿礼の実在が確認されていない等から偽書説も唱えられました。稗田阿礼について女性説を唱える学者や藤原不比等ではないかと指摘する方もおり、今では様々な解釈がなされています。

『古事記』の内容に関して、宣長は漢心を廃した倭心（＝もののあわれ）の書として評価しています。また、文章は漢語と和語の音を合わせた変則の漢文で構成され、紀伝体（人物ごと）で編集されています。

一昨年は『古事記』成立千三百年、昨年は富士山が世界遺産登録されました。これらを契機に、当班で富士の女神の木華開耶媛の絵姿（堂本印象画）を眺めたのが神話学習の始めでした。神々の誕生、国生み、国譲り、天孫降臨、記紀（『古事記』と『日本書紀』）の神々の系譜の比較・・・等テーマを決め、月一回約二時間、同じ東南班の安岡さんを中心に原文と注釈を交え、学び始めて半年経ちました。律令制以前の語り継がれた民俗風土的物語文学として、また、後宮女房文学のはしりとして、人間味溢れるミソロジイ（神話）は面白く、神社巡りの興味も倍加しそうです。（東南班 松本）

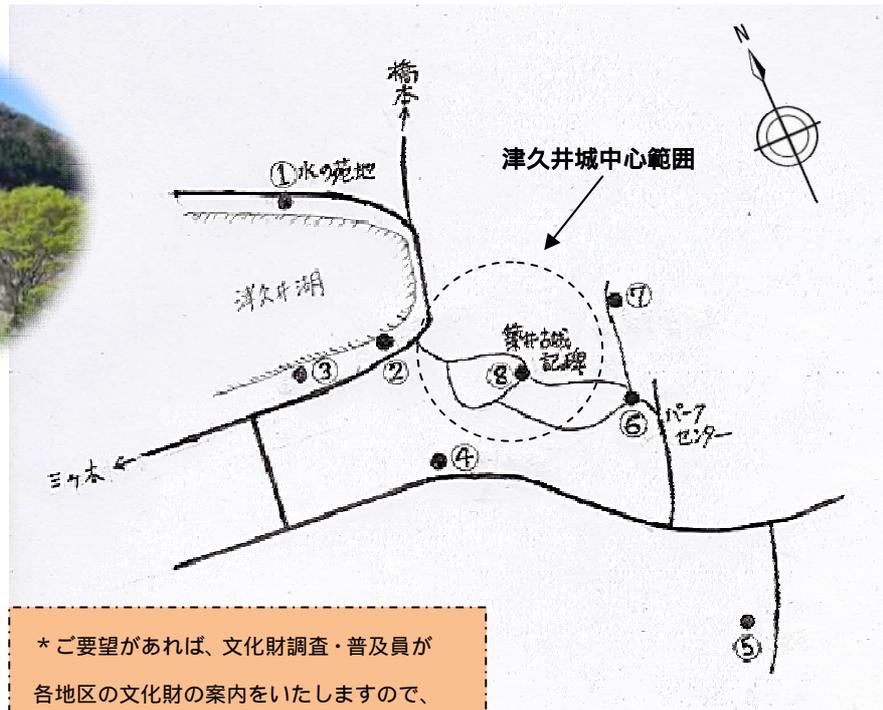


古事記編纂1300年
記念切手
木華開耶媛

津久井城址城山を歩く



水の苑地から見た城山



* ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

津久井の城山と言えば津久井城址として知られていますが、まだまだその史跡として判らないことが多く毎年11～12月に

市とボランティアによる「津久井城市民調査グループ」が発掘調査を行っています。見学会も催されます。また城山の周辺には、県・市文化財として指定・登録されているものがあります。これらを見学しながら375mの城山を登る散策ルートを記してみます。

県立津久井湖城山公園水の苑地：津久井湖記念館があり津久井湖城山ダムが作られた時の資料が展示されています。駐車場有

県立津久井湖城山公園花の苑池：観光センターがあり新鮮野菜などの直売をやっています。また城山への登り口があります。駐車場有

大蔵寺(だいぞうじ)：寺の入り口に市登録文化財の「太井大蔵寺の徳本念仏塔」があります。また津久井観音霊場四十一番札所になっており、今年5月本開帳がありました。

根小屋諏訪神社：県名木100選に指定された「スギ」があります。説明プレートがあります。

功雲寺：市登録文化財「伝津久井城主内藤氏の墓」宝篋印塔型の墓です。

パークセンター：「お陣屋」と云われていた場所に建っています。研修棟、展示施設があります。駐車場有

散策園道：園道を歩くと森のステージや里山広場があり、散策と遠望景観のよいところがあります。また、城址発掘見学等は、11月の「収穫感謝祭」の時期に行われます。

城山山頂：市指定文化財「築井古城記碑」があります。津久井城築城由来や内藤氏の系譜等の伝承が記されています。

市の文化財についてはリーフレットが有りますので文化財保護課へ問い合わせください。

県立津久井湖城山公園についてはインターネット検索ができます。(津久井班 土屋)

* 文化財調査・普及員の活動や通信紙『さねさし』のバックナンバーは相模原市のホームページから閲覧できます。

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話042-769-8371